

ダスキン創業者 生誕百年

十二月二十一日は創業者鈴木清一の誕生日です。五十二歳でダスキンを起し「喜びのタネをまこう」を合言葉に、日本にはなかったダストコントロール商品、定期交換のレンタルシステム、加盟店によるフランチャイズ流通組織を立ち上げ、その後もミスタードーナツやハウスクリーニングなど、生活に寄り添ったサービスを届けようという道を拓きました。

ダスキン以前には「ツヤ出し」ケントクという会社を経営していたのですが、手放すことになり、失意の底から出直した人生でした。今年（平成二十三年）生誕百年を迎えた創業者の生涯を「敗れざる者」(PHP)とまとめた本も出版されていますが、その発想力、気力は「人間には志が強くあれば、死ぬまで意欲的に

なれるのだ」と考えてしまいます。昭和五十五年に亡くなりましたが、最後の病床でも担当の看護師さんに「ダスキンのお手伝いをしてくれませんか」と誘われていたようで、ダスキンへの思いの深さは、創業者だからという表現では語りきれぬものではないかもしれません。ケントクもダスキンも、ミスタードーナツも事業は違いますが、共通するのは「祈りの経営」を志す商いであり、一人ひとりのお客様に「喜びのタネ」をお届けすることに人生を注ぎました。

ダスキンはまだまだサービスに至らないこともあるでしょうし、ご満足いただけない商品もあるでしょう。しかし、創業者にならって、その都度ひとつひとつ、至らない自分を日々反省し、さらにお役に立てるよう努力し続けてまいります。

株式会社ダスキン社長

山村禪治

写真・市谷 健「ママ、もうひとつだけ、いい？」



読む人の
心に願って
幸せを
作る

喜びの タネまき 新聞

no.511

食べ物の思い出は、思いがけない深いところで人と結びついているものです。あなたはどのようにしようか。

「生活のうどん」

東京といっても、まだ雑木林が残る武蔵野の一角。どこにもあるような町で、ぼくは生まれ育った。近くの雑木林は宝に満ちあふれ、カブトムシや、沼地にはザリガニの住みかがあり、もちろん秘密基地だってあった。

夕暮れ、遊びほうけて腹が空いた頃、家々から夕飯の香りが漂う。帰り道、今晩は何かなと楽しみになる。贅沢ではないが母の作るご飯はいつも美味しかった。ただ一つ気の進まないもの、それが手打ちうどんだった。

このあたりは稲作に適さない土地で昔から小麦を栽培し、正月や彼岸、盆など、人寄せには決まって地粉でうどんを打つ。うちは祖父の代までは農家だが、父は勤め人になった。そういう時代、それが当たり前だった。

ぼくが苦手なうどんは「種うどん」と呼ばれ、都会育ちの母方の親戚に好評で、毎度手みやげに持たせるほどだった。種とは畑で取れる野菜で、茹でたダイコンや、ホウレン草、ナスなどを、つけ汁と一緒に食べる。大人はなぜ太くてこそそしたうどんを旨いというのか。野菜も嫌いで、ぼくは飲み込むのに苦労していた。

ただ、うどん作りは面白かった。この辺では打つのは男、茹でるのは女と決まっています。父は慣れた手つきでうどんを打った。ぼくの役目はこねた粉をビニールに包んで足で踏むこと。家族の共同作業で、この足踏みは面白かった。ふだん厳しい父も、このときだけはうれしそうな顔をした。ぼくはそうやって大人になった。

家を出て仕事を持ち、気がつくとも80歳を過ぎた父が、

絵と文 中村みつを



イラストレーター、画家。絵と文の作品は自然・旅・人がテーマで、心の和む温かさ。読売新聞夕刊のみなみらんぼうのエッセイ「一歩二歩山歩」に挿絵を描き、新聞連載最多記録14年目。日本山岳会会員。著書に「のんびり山に帰るはのぼる」(山と溪谷社)、「お江戸超低山さんぽ」(書肆侃侃房)、「森のくらし」(リヨン社)など。

ぼくより病とつき合う日々が多くなっている。うどんを打ったのはぼくが中学に上がる頃までだと、母は言った。その後は地元の製麺所で買い、種うどんとして来客をもてなした。父の使った麺棒や麺板はもう無いのかと聞いたら、母が大切に残していた。雑木林も畑も少なくなり、ぼくはといえば大人を過ぎて、その味わいを知った。生活と家族の糧であったうどんを食べるたび、そのうどん打ちの時間を思い出すのである。

オーブントースターで焼ける「ホットビスケット」

サワークリーム入りのさっぱり味、大きめのビスケットに、お好みの具材をのせていただきます。パーティーのオードブルや、朝食など、何にでも対応できる優れたもの。

◎作り方(6枚分)

◎生地作り
小麦粉2カップ、ベーキングパウダー大さじ1、砂糖大さじ3、塩少々はふるいにかけてボウルに入れる。そこへ室温に戻した無塩バター70gを入れる。バターを入れたら、指先を使い粉とすり合わせるようにして、まんべんなく混ぜる。さらにサワークリーム90mlを入れ、今度はなるべく練らないように混ぜ合わせ、最後は全体を丸くまとめる。

◎型作り
小麦粉で打ち粉をした台の上に、まとめた生地を置き、1cmの厚さになるよう、めん棒で伸ばす。お茶や海苔の缶などの蓋を使い、小麦粉を軽くふって生地から型抜きをする。1枚の直径は8〜9cmが目安。型を抜くときは、無駄なく生地を合わせながら、同じ大きさ、厚みのものを作ること。2種類の生地からそれぞれ3枚分できます。

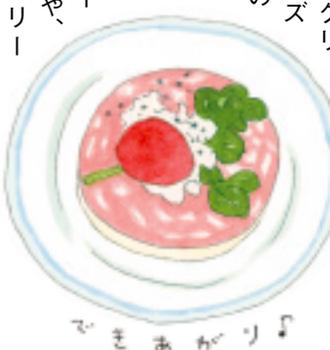


上からアルミホイルをかぶせ、オーブントースターで約15分焼いたらアルミホイルを外して、さらに5分くらい焼く。だんだん温度が上がるので、焦がさないように気をつける。薄い焼き色が付いたら出来上がり。網にのせて冷まし、あら熱が取れたらトッピングを楽しみましょう。



●トッピング
そのまま食べてもさっぱりとした味わいのビスケット。そこに、塩の効いたポロニアソーセージのスライスにカットチーズ、クレソン、プチトマトをのせて、上から黒コショウ、オリーブオイルをふりかけると、ワインに合うおしゃれなおードブルの完成です。

他にも、クリームチーズに缶詰のパイナップルを切って混ぜたフルーツクリームチーズや、ブルーベリーなどのジャムもよく合います。



お料理研究家 こいけりえ

おやつ時間 簡単、美味しい楽ラクレシピ



●焼く
オーブントースターは予熱しておく。天板の上に6枚をくっつかないように並べ、生地の真ん中を親指の腹で少し押しへこませる。



みんもみんも!!

見てうれし、見せてうれし、この写真。わたしの出番の1枚を送ってください。



「これからおでかけなの」 奈良県天理市 少名子真知子



ジャンプ! 兵庫県伊丹市 森有子



おそろい! 静岡県焼津市 大石一美

家族や友だちにしか撮れないステキな笑顔、みんなに見てもらいたいわたし好みの1枚。もちろんかわいいペットも撮れたら送ってください。お待ちしております! (詳細は7ページ)

お店の壁が大漁旗だった。暑い日で目の前が漁港だから霧
囲気が合っていたが、被災で壁が倒れた事に気付いた。震災
の時、津波から守るため沖へ出した船はほとんど助かったが、
船まで駆けつけるために乗ってきた車は全滅したという。
6月1日からお店を再開。すぐにお客が押し寄せ、夏に
本格稼働。10時の開店前から50〜60人もの行列ができ、4
時近くになって客足が引いてくるまで、店内では話を聞く
間もない。

あとで聞いたら壁代わりに張られた幕も、店内を飾って
いた垂れ幕も、大漁旗ではなく、「新しい船を造った時に、
皆が贈るお祝いなんです」漁師町の結束が伝わってくる。

漁師のかあちゃんは46名。実に見事によく働く。「ここ
は女性のお店ですから」と漁協の販売企画の男性が控えめ
にしているくらい。

かあちゃんの店は漁協の女性部が携わり、3交替制。休み
は月曜日。かあちゃんの毎日は大忙しだ。早朝、船を送り
出してから、8時頃には店の下準備。午前中に船が入って
くるので、出来る人で水揚げをする。1班がお店に入ると、

茨城県大洗町は北関東で有数の漁港の町。
とおちゃんが釣ってきた魚を、その場で調理。仕込みから会計まで
全て女性が切り盛りするお店をお訪ねしました。

活力 いっぱい かあちゃんの店



その日あがった旬の魚が食べられるよ〜。



2時半過ぎる頃、ようやく席に空気が。
時間をずらして行くのがコソの繁盛店。



上はおおちゃん御膳。かあちゃん御膳と共に1200円
はお値うち。冬は肝で煮込んだ浜鍋が美味!

2班が魚の下ごしらえ。わかるがわるで回すので、休憩時
間がない。みんな、ものすごい働き者だ!

「今日もう船が上がって、お父さんにご飯食べさしたり
してるから、お昼ごろは女の人が少ないねえ」と高橋早苗
さん。お店が開店した頃からのメンバーだ。ゴム引きのズ
ボンをはいて、水揚げの時も、魚の作業台の水をガバッと流
す時も豪快だ。これが、漁師のかあちゃんの「仕度」かと納得。
高橋さん曰く「昔は仕度一人前でも、仕事半人前と言った
もんだよ。今よりもっと口も厳しかったし」と。他のおか
あさんは「浜育ちで、結婚して50年だよ。ずっと漁師」

話しながらも、テキパキと誰の手も止まらない。野菜の煮
方、昨日のおかずで何が美味しかったか、情報交換もする。
もちろん、店が引けたら、また家で夕ご飯を作るのだ。

かあちゃんの店のメニューは、煮魚と刺身の「とおちゃん
御膳」と、シラスの天ぷらと魚のかき揚げに刺身の「かあち
ゃん御膳」をはじめ、その日に水揚げされた季節の地魚を
楽しめる。お客さんは「この前あれ食べたから、今日はこっ
ちにしよう」「そうそう、シラスがおいしいんだよね」と行列
に並びながらの品定めで、美味しさもいつそう盛り上がる。
なんせ捕れたてだから鮮度が良い。これから冬場に向かっ
て、カワハギの肝で煮込んだ浜鍋定食が絶品なのだという。

店の閉店時間近く、外でビールを飲んで地元の男性
客があたりを見回しながら言った。

「家と同じもの食べても味が違うんだよ」
広々とした眺め。親潮と黒潮が交わる豊かな海。遠く北
海道へ行くフェリーも着く。

「大洗は一番いいとこだ。釣りもできるし」機嫌良く酔って
いた男性も、すぐ姿が消えた。ここはやっぱり「かあちゃん
の店」なのだった。



せんりょうの実

川崎市 堀江和恵

今年、我が家の裏にひっそりと植えてあったせんりょうが鮮やかな実をたくさんつけた。玄關に飾っていたら、遊びに来ていた3歳の孫娘が「なんかクリスマスみたい」と一言。赤と緑の組合せは、孫にとつて、クリスマスのイメージなのかと、とてもほほえましく思った。せんりょうは実家の庭で、毎年たくさんの実をつけていた。お正月用にもらって、実が落ちないように、そとと持って帰った思い出の品。今年は母の三回忌でした。生前は、夕方になると電話がきたり、わたしが電話をしたり、毎日のようにおしゃべりをしていた。 「お母さん、うちの庭の、せんりょうもたくさん実をつけたよ。それに、お母さんには会えなかったけれど、今年生まれた孫の男の子も元気に育っているよ」とい、空に向かって話しかけるのです。

——秋の深まった空と赤い実……



そうじ

鳥取市 川上紀子

小学4年生の遠足の日。50人で道草をしながら歩いていて、予定よりかなり遅れてしまい、目的地に着くことが難しくなりました。そこでお腹もすいていたので、何をするにも、まず腹ごしらえと、急に予定を変更。通りがかりのお寺の境内のお庭で、昼食をとらせて頂くことになりました。お昼を終えて、これからどうしようかという時に、女の子の提案で、お礼にお寺の庭そうじをさせてもらうことになりました。落ち葉かきや草取りを終えると、お寺のご住職は大変喜んでくれました。小学生なのに感心と思われたのが、長い竹ぼうき2本を下さり、男の子がかかるがわる、得意そうに肩にかついで帰りました。いつまでもほのぼのとした思い出です。

——予定変更の道草もいいですね。



お手紙

秋田県大館市 若狭ひとみ

ピンポン、呼び鈴が鳴った。「ハイ」と居間を出て、玄關を見ると、小さな影。もう一度「ハイ」というと、戸が開いて、向かいのお孫さんの、さくらちゃんが入ってきた。手に持ったかわいらしい封筒を、「これ」とさし出す。「おばちゃんに？」うん。わかささんに「見てもいいかな？」うん。封を開けると、わかささんへ さくらより いつもやさしくしてくれてありがとうね。あめくれてありがとうね♡ 思わず、さくらちゃんを抱きしめた。私には孫がない。でも、こんなにかわいい子が、わざわざ手紙を書いて届けてくれるんです。心が温かくなった小さな手紙でした。

——ハートマークがふたつ、ですって。



似顔絵

宮城県栗原市 佐藤澄子

80歳になりましたが、市内の施設で、ボランティア活動をして20年以上になります。10月、その文化祭で、身体の不自由な方との似顔絵描きの方が、今日はお客さんもなく、退屈そうです。その様子を見ていたKさんが「私、描いてもらってくるわー！」描き終えた似顔絵はKさんにそっくり。A3の画用紙に鉛筆描きで料金はたったの百円。「似ている、似ている」の声と共に、その似顔絵は次々に手渡されていきました。「こんなに上手に描いてもらって百円は安いわよね」と賑やかに盛り上がる中「もう百円出したら、シワ一本取ってもらえたかもね。三百円出したら、シワ全部取ってもらえたかも…そうなると思いの顔でなくなるねえ」とKさん。その言葉に、皆、アハハ、アハハと大笑い。多くの人が集まる所で、いつも笑いが出て楽しい私たちです。

——上手によりは美しく。おんないいごもね。



おみやげ

香川県観音寺市 石井純子

近くに住む小学6年生になる男の子の双子の孫が修学旅行から帰って来ました。お土産に、一人の孫は私の好きな八ッ橋。もう一人は健康のお守りと健康ブレスレット。私は2年前にがんを発病し、翌年、思いもよらずの再発。今も治療に頑張っています。誰に教えてもらったわけでもないのに大好きな八ッ橋を買ってきてくれた孫と、病気が治りますようにと願いがこもったお守りを買ってきてくれたもうひとりの孫…。嬉しくて、嬉しくて涙が止まりませんでした。いつもさらっとしている男の子っぽい双子がこんな優しい気持ちを持っていてくれたなんて。ばあちゃん、まだまだ頑張るから！

——孫は元氣のみなと、ですね。



大きくなったら

石川県金沢市 魚谷香織

1歳と2歳の子を持つ母です。主人は忙しく、私は出産後、14年間勤めた会社を続けるかどうか迷いましたが、今も働き続けています。仕事を終えて保育園にお迎え。買い物、夕食作りにお風呂と子供達が寝るまでは戦争です。お腹がすき、グズる息子をおんぶしながら、娘をあやし、と息つく暇もない状態でした。そんなある日、2歳の娘が「ママ、お味噌汁あげると。おいしいね。大きくなったら作ってあげるね」と…。思わず耳を疑いましたが、突然でなおさら感動、感激。毎日時間に追われ、手の込んだ料理を作つてあげられない私ですが、涙が出るほど嬉しい娘の言葉でした。

——これだから子育てはたのしいのよね。



山梨県笛吹市 中村由美子

「じいちゃん」「むふふが」

二度とない人生をだれでも金をもっと欲しいと思うのは真実だ。しかし最初からじゅんぶんを支払われるならば、人間は必ずしも、それ以上に金をほしいとは思わないだろうし、また金によって彼らの態度が変わることもないだろう。仕事をするのに、お金の価値づけをするのはよいが、自分から、金だけの働きかしない、とサボって得をしたように思う人があれば、もつてのほかだ。自分自身の二度と戻ってこない、かけがえのない人生を、ムダにする事だ。

鈴木清一

●投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真にはお礼をさせていただきます。

●送り先 〒163-0223 東京都新宿区西新宿2丁目6番1号 新宿住友ビル23階(私書箱47号) ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室 電話 03(5909)6703 e-mail: koho4@mail.duskin.co.jp

「ダスキン大掃除川柳コンテスト」第5弾開催 ●応募締切日: 2012年1月10日(火) 必着 ※詳しくは下記まで ●パソコン http://575.duskin.jp ●ダスキン大掃除川柳コンテスト事務局 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33 ●携帯電話 http://575.duskin.jp/m (受付時間 月～金 10:00～17:00) ※祝日除く

No.419からのバックナンバーが下記のアドレスからご覧になれます http://www.duskin.co.jp/torikumi/tanemaki/index.html

●2ページの「中村みつをさんのアトリエ」 〒167-0022 東京都杉並区下井草5-12-10-109 ●4-5ページの「かあちゃんの店」の連絡先 〒311-1301 茨城県東茨城郡大洗町磯浜町字東8253-20 電話: 029-267-5760 営業: 10:00～16:00 月曜日休(祝日の場合は翌日)

チャレンジ! ～あの瞬間を今に～

国際社会論の講義風景

第3期海外研修派遣生 静岡県立大学教授 石川准さん (視覚障害)

vol.6

視覚に障害がある人のコンピューター利用が認識されていなかった学生時代には、勉強したくても音声サポートなどの環境整備がないもどかしさに直面しました。研修先のニューヨーク州立大学で音声機能付きコンピューターに出会い、帰国後は開発に没頭。様々なソフトを作りました。専門の社会学とテクノロジーの両面からのアプローチで障害のある人の社会的な障壁を取り除きたいです。

このコーナーについては 広げよう愛の輪運動基金まで。

06-6821-5270 HP (http://www.ainowa.jp/)

今年30周年を迎える愛の輪は日本とアジアの地域社会のリーダーを目指す障害のある若者に、福祉先進国での研修支援を行っています。

エコメッセージをかわいく発信！

「エコTシャツデザイン大賞」決定！

5つのテーマに
ご応募ください



身近に、未来に、エコのタネまき。 くりがえし使うエコ みんなで使うエコ 減らすエコ 捨てないエコ

ダスキンと雑誌『Pen』の協力企画、
「エコTシャツデザイン大賞」のグランプリが決定しました。
エコにまつわる5テーマにあわせて応募いただいた作品は、なんと
2000点以上。みなさんの投票で選ばれたグランプリ作品のTシャツは、
ダスキンが出展するイベントなどで着用されています。
詳細は“ダスキンエコT”で検索してください。

(ダスキン環境シンボルマーク)



ダスキンのお客係募集中!!

詳しくはwebで

お客様係

検索

※お仕事内容や募集要項をご覧ください。



携帯からも
アクセス

お楽しみクイズ

ダスキンと雑誌『Pen』の
協力企画の名前は？



エコ デザイン大賞

正解者の中から30名様に
「キッチンきれいセット」を
プレゼント!



下記の要領でご応募ください。

◆ハガキに

- ①クイズの答え②郵便番号③住所④氏名⑤年齢⑥性別
- ⑦電話番号⑧現在ご利用のダスキンの店名をご記入の上、
下記であて先までお送りください。

◆あて先

〒163-0265
(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞no.511」
クイズプレゼント係

郵便番号は
お間違いなく!

※お楽しみクイズ専用の住所不要のあて先です。

- ◆締め切り 平成23年12月23日(金)当日消印有効
- ◆ダスキン関係者の応募はご遠慮ください。
- ◆当選者の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。
(平成24年1月下旬お届け予定)
- ◆応募に関してのお問い合わせ TEL:03-5909-6703

※抽選結果に関するお問い合わせはお受けできません。予めご了承ください。

今回ご応募いただいた個人情報については、(株)ダスキンの範囲内でのみ利用させていただきます。プレゼントの抽選・発送の目的以外には使用いたしません。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞」クイズプレゼント係 TEL:03-5909-6703 までご連絡ください。

no.509のクイズの答えは「(油っけりん)ナイス」でした。

●この新聞をお届けしているのは

株式会社 **ダスキン**

発行：広報・広告部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

編集：「喜びのタネまき新聞」編集室

〒163-0223

東京都新宿区西新宿2丁目6番1号 新宿住友ビル23階(私書箱47号)

TEL:03-5909-6703 FAX:03-5909-6771

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】

お客様の個人情報は商品のお届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。また、後日商品やサービスのご案内をさせていただく場合があります。なお、お預かりした個人情報はダスキングループ企業と加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。

個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキンコールセンターまでご連絡ください。

■ダスキンコールセンター

0120-100100 www.duskin.jp